

野原茂八家文書

(採訪時住所 和歌山県有田郡広町)

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考
1	享保17	1732	子			8	覚(新在家田畑家財売渡につき)	猿川新在家善口口 七左工門(印)、 同所證人 徳兵衛(印)、同所庄屋清 七(印) 他1名	廣村 源助殿	豎紙	1	▼年は史料本文より推 測
2	享保17)	1732	子		極月	14	覚(三助田畑売渡につき)	猿川庄屋 清七(印)、同所 新在家 七郎衛門	廣村 源助殿	豎紙	1	
3	享保17)	1732	子			12 14	覚(田畑代米受取につき)	猿川庄屋 清七(印)	廣村 源助殿	豎紙	1	
4			戌			8	奉歎願口上	湯川官祐	濱口儀兵衛殿	繼紙	1	

野原茂八家文書

－史料の概要と特色－

「野原茂八家文書」の史料点数は4点で、享保17（1732）年8月「覚（新在家田畑家財売渡につき）」他2点が田畑の売渡しに関する文書で、いずれも「子」と記されていること、宛名が「廣村 源助」とあることから同時期に作成された一連の史料と考えられる。

廣村は現在の和歌山県有田郡広川町で、湯浅湾に注ぐ広川の下流域に位置する。昭和30（1955）年に広町、南広村、津木村が合併して成立した。廣村は廣浦とも呼ばれ、近世期の漁民は、遠く西は五島列島、東は房総半島まで出漁し、鰯網を営んだ。ただし、本史料群の文書は、漁業とは無関係の田畑の売渡しに関するものである。

（文責 越智信也）